

情報と倫理 (春学期、秋学期 2単位)

加藤 敏幸・植原 亮・江澤 義典

Computer Ethics

■授業概要

現代の情報社会においては大量の情報が生産・流通・加工され、これを土台に様々な社会システムが構築されている。これに伴い、この情報の取り扱い如何で、個人や社会に対して多大の損害を被らせる危険性が高まっている。それゆえ、情報に携わる者には、特有の倫理的配慮、すなわち、情報モラルが強く要求され、さらには、法的な要請も課せられるに至っている。他方、社会自体の情報化によって、従来の法的理解では想起され得ない法現象も招来し、例えば、ホームページにおける著作権侵害などの知的財産権をめぐる問題やコンピュータ犯罪など、新たな法的課題が提起されている。そこでこの講義では、かかる情報をめぐる法的諸問題（加藤担当）および哲学的倫理問題（植原担当）、技術的倫理問題（江澤担当）を、具体的事例に則して検討することにした。

■到達目標

情報に携わる者には、特有の倫理的配慮、すなわち、情報モラルが強く要求され、さらには、法的な要請も課せられるに至っていることを理解する。

■授業計画

- 1 ガイダンス（加藤担当）
- 2 加藤 （1）情報化社会と人権
- 3 （2）伝統的プライバシー権
- 4 （3）現代的プライバシー権
- 5 （4）個人情報保護
- 6 『情報と倫理に関する特別講演』（植原司会）
- 7 植原 （1）法と倫理・道徳
- 8 （2）表現の自由と名誉・プライバシー
- 9 （3）知的財産権
- 10 （4）情報の哲学からの展望
- 11 江澤 （1）情報技術・計算技術の普及
- 12 （2）情報労働の変化と社会の変化
- 13 （3）情報機器のエラー、要因とその対策
- 14 （4）情報技術者の倫理、ユーザの倫理
- 15 まとめ（江澤担当）

■授業時間外学習

授業資料、参考書、ノートを読み返し、授業内容の理解に努めるよう復習をすること。

■成績評価の方法

定期試験（筆記試験）の成績で評価する。

学期末の定期試験により評価する。出題は、加藤1枚、植原・江澤で1枚の計2枚とし、その合計点を成績とする。ただし、各担当者の出題分について、配点の半分未満の場合は不合格とする。

■成績評価の基準

講義内容に対する理解度

■教科書

講義の際には、『デイリー六法（本年度版）』（三省堂）あるいは『ポケット六法（本年度版）』（有斐閣）を用意すること。

■参考書

『情報倫理学』（ナカニシヤ出版）越智貢・土屋俊・水谷雅彦
『インターネットの光と影（第4版）』（北大路書房）情報教育学研究会
『新・情報の法と倫理』（北樹出版）和田・原田・日笠・鳥居

■備考

本講義の発展科目については、刑事法的展開として「コンピュータ犯罪」、民事法的展開として「ソフトウェアの法的保護」「知的財産法」、メディア関連として「メディア法制と倫理」が用意されているので、引き続き受講されることを希望する。